

# 水産研究部 企画調整事業

金澤 健・日高悦久

## 事業の目的

農林水産研究指導センター水産研究部（北部水産グループを含む）の企画調整機能を充実・強化するため、「企画調整」、「広報広聴」及び「研修」などに係る業務を行った。

### 1. 企画調整事業

水産研究部の管理担当、企画指導担当、資源増殖チーム、養殖環境チーム及び北部水産グループの資源増殖チーム、養殖環境チームの業務や予算等を調整し、組織の円滑な運営と調査・研究の効率的な推進を図った。

また、農林水産研究指導センター本部をはじめ、関連機関との連絡調整、情報交換等を行い、研究課題等の企画、立案を行った。

### 2. 広報広聴事業

各種のメディアを通じて、調査・研究結果を積極的に公表・伝達する広報活動と、漁業現場のニーズを的確に把握して業務に反映させるための広聴活動を行い、水産情報拠点としての機能の充実を図った。

### 3. 研修事業

他機関や団体等からの研修や視察に積極的に対応し、開かれた研究機関としての機能の強化を図った。

## 事業の方法

### 1. 企画調整事業

#### 1) 大分県水産研究企画調整会議

漁業者ニーズへの迅速、的確な対応、効率的な調査・研究活動を推進して、本県水産業の振興発展を図るため、大分県水産研究企画調整会議設置要綱に基づき、会議を運営した。

また、センター本部が主催する農林水産研究指導センター企画調整会議には、企画指導担当総括及び北部水産グループ養殖環境チームリーダーが、センター所属長会議には水産研究部長及び北部水産グループ長が出席して、センター本部との連絡調整を行った。

### 2) 研究予算調整

限られた予算を有効に活用し、効率的な研究開発を推進するため、水産研究部及び北部水産グループの研究予算等の調整と編成を行った。

### 3) 試験研究課題検討会

要望として出された試験研究課題について、行政職員、普及指導員及び漁協関係者から課題の必要性、普及方法等について必要な助言を得て検討を行った。

### 4) 大分県農林水産試験研究アドバイザー会議

本県水産業の振興発展に有益な試験研究を進めるため、大分県農林水産部試験研究実施要領並びに大分県農林水産試験研究アドバイザー設置要領に基づき、学識経験者等のアドバイザーを招集して、水産研究部アドバイザー会議を開催し、新規研究課題に関して専門分野の技術的アドバイスを受けた。

### 2. 広報広聴事業

#### 1) 広報

##### A. 研究発表会等

水産研究部の研究者の資質向上、情報交換を目的として、大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会（通称：三水試）を開催した。

##### B. 刊行物等

###### a) 事業報告書

刊行物投稿規約に基づき、水産研究部及び北部水産グループ分をまとめた事業報告書を作成し、ホームページで公開した。

###### b) 研究報告

刊行物投稿規約に基づき、大分県農林水産研究指導センター研究報告（水産研究部編）を編集、発行した。

###### c) 広報紙 AQUA NEWS（アクアニュース）

広く県内外の水産関係者等に研究成果等の情報を発信するため、広報紙 AQUA NEWS(アクアニュース)を編集、発行した。

##### C. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページ（アドレス：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>）及び北部水産グループのホームページ（アドレス：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/15091/>）において、水温情報、

漁況海況予報、緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。

事業の結果

2) 広聴

A. 水産研究・普及連絡会議

研究員と水産業普及指導員との連携を強化し、漁業現場の情報や要望を研究課題に反映させるため、水産研究・普及連絡会議を開催した。

B. 県漁協各地区運営委員長・市町村水産担当課長会議

水産研究部に対する漁協や市町村の要望や意見を聴取して研究課題に反映させるとともに、水産研究部の最新研究情報を伝達するため、県漁協各地区運営委員長・市町村水産担当課長会議を開催した。

3. 研修事業(視察・研修受入)

開かれた研究機関としての役割を果たすために、視察、見学者への説明や案内等を行った。また、児童・生徒の学校関係者や生産者の研修や実習等に対応した。

1. 企画調整事業

1) 大分県水産研究企画調整会議

今年度は会議を8回開催し(うち、Web2回)、各部所の行事、予算及び研究課題等の連絡調整を行い、水産研究部としての方針を決定した。

2) 研究予算調整

センター本部策定および水産研究部が定めた予算編成方針に基づき、各担当・チームから要求があった試験研究及び施設整備等の次年度当初予算を取りまとめて編成した。また、本年度補正予算編成にも対応した。

3) 大分県農林水産試験研究アドバイザー会議

2023年2月から3月の間に、大分県農林水産試験研究アドバイザー会議を開催し、重要研究課題について専門分野の技術的アドバイス等を受けた(表1-1、表1-2)。なお、新型コロナウイルス感染防止対策等のため、1課題はWEB会議、1課題はメール会議により開催した。

表 1-1 大分県農林水産研究(水産研究部)アドバイザー会議委員名簿(令和4年4月1日~令和5年3月31日)

所 属	役 職	氏 名	備 考
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 企画調整部門	特 任 部 長	照 屋 和 久	学識経験者
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 養殖部門 育種部	育 種 基 盤 グ ル ー プ 長	岡 本 裕 之	学識経験者
国立大学法人 九州大学大学院農学研究院 資源生物科学部門 水産生物環境学研究室	准 教 授	島 崎 洋 平	学識経験者
国立大学法人 愛媛大学沿岸環境科研究センター 生態系解析部門 魚類感染症学研究室	准 教 授	北 村 真 一	学識経験者
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校 生物生産学科 生物環境学講座 藻場生態系保全研究室	教 授	村 瀬 昇	学識経験者
学校法人 福山大学 生命工学部 海洋生物科学科 沿岸資源培養学研究室	教 授	太 田 健 吾	学識経験者

表 1-2 大分県農林水産研究アドバイザー会議に付託した研究課題

研 究 課 題 名	担 当 チ ー ム	研 究 期 間	備 考
ヒラメ耐病性家系の選抜育種	水産研究部資源増殖チーム	令和3~5年度	2月15日
IoT等を活用した有害・有毒プランクトン対策	水産研究部養殖環境チーム	令和3~5年度	2月21日(web)
魚病疾病に対するワクチン等の効果を高める技術の開発	水産研究部養殖環境チーム	令和2~4年度	2月27~28日
高級魚キジハタの種苗生産技術開発	北部水産グループ資源増殖チーム	令和2~6年度	2月22~23日
ヒジキ完全養殖技術の開発	北部水産グループ養殖環境チーム	令和3~5年度	2月27日~3月25日(メール会議)

## 2. 広報広聴事業

## 1) 広報

## A. 研究発表会等

2023年1月26日、J:COM ホルトホール大分において、大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会を開催した(図1)。



図1 研究発表会の様子(J:COM ホルトホール大分)

水産研究部から8課題、北部水産グループから4課題、北部振興局水産班から2課題の研究発表が行われた(表2)。

## B. 刊行物等

## a) 事業報告書

水産研究部の令和4年度事業報告を編集、作成し、ホームページで公開した。

## b) 研究報告

大分県農林水産研究指導センター研究報告(水産研究部編)第9号を2023年3月に発行し、ホームページで公開するとともに、県外の研究機関や大学、県内研究、行政機関等、県漁協各支店および沿海市町村水産主務課へ配布した。

## c) 広報紙 AQUA NEWS(アクアニュース)

本年度は、8月に第55号、1月に第56号を編集、発行し、ホームページで公開するとともに、県庁情報センターへ配布した。

## C. インターネットによる水産業界情報の発信

水産研究部のホームページにおいて、水温情報、漁況海況速報、予報並びに緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。

表2 大分県水産関係研究者連絡協議会 研究発表会の発表課題名と発表者

発表課題名	所属(チーム)	発表者
栽培漁業対象種クルマエビの操業・漁獲実態と種苗放流の課題	北水G資源増殖	研究員 崎山 和昭
近年の大野川水系におけるアユ流下状況と遡上状況	北水G養殖環境	研究員 西 陽 平
2021年豊後水道周辺海域におけるタチウオの資源解析	水研部資源増殖	主任研究員 徳光 俊二
カジメ類フリー種苗の藻場増殖への活用	北水G養殖環境	研究員 古川 あさひ
マガキ人工種苗の生産効率向上に向けた試み	北水G資源増殖	研究員 高橋 杜明
ガザミ養殖技術開発	北部振興局	普及指導員 吉岡 宗祐
豊後水道南部における定置網漁獲物組成の変化	水研部資源増殖	研究員 渋谷 駿太
生息南限海域に分布するマコガレイの生態に関する研究	水研部資源増殖	研究員 和田 宗一郎
山国川漁協中間育成施設におけるアユのへい死原因究明の試み	北部振興局	普及指導員 井口 大輝
IoTを用いた監視システムによる養殖マグロのへい死要因の解明	水研部資源増殖	主任研究員 野田 誠
エドワジエラ症に強いヒラメ系統の作出を目指して	水研部養殖環境	研究員 森田 将伍
3年魚ブリの血合筋褐変と生殖腺の関係性	水研部養殖環境	研究員 中島 智優
ブリⅡ型レンサ球菌症の発症に及ぼす給餌の影響	水研部養殖環境	研究員 室谷 冬香
大分県で分離されたⅢ型レンサ球菌のブリに対する病原性	水研部養殖環境	研究員 吉井 啓亮

2) 広聴

A. 水産研究・普及連絡会議

2022年5月19日に水産研究部、2022年8月9日に北部水産グループが開催した。水産研究部、北部水産グループは調査研究計画、振興局は普及指導計画、漁業公社は事業計画についての説明および質疑応答を行った。また、水産振興課からは“大分県漁業学校”の実施についての説明を行った。試験研究機関への要望については、各チーム・担当において対応し、後日、振興局水産班各総括あてに書面で正式に回答した。



図2 県漁協各地区漁業運営委員長及び市町村水産主務課長会議の様子(豊後水道北部海区)

B. 県漁協各地区運営委員長・市町村水産担当課長会議

2022年7月14日に豊後水道北部海区(大分市、臼杵市及び津久見市)、7月19日に豊後水道南部海区(佐伯市)を対象とした県漁協各地区漁業運営委員長及び関係市水産主務課長会議をそれぞれ開催した(図2)。

会議において報告した研究取組状況について表3に示した。

表3 県漁協 地区漁業運営委員長・市町村水産担当課長会議等の開催実績及び研究取組状況の報告

開催日(場所)	対象地区	研究取組課題名/報告者
2022年7月14日 (県漁協臼杵支店)	豊後水道北部海区	「2020年タチウオ資源解析」 水産研究部 資源増殖チーム 主任研究員 徳光 俊二
		「緑色LEDでヒラメがゲンゲン育つ」 水産研究部 養殖環境チーム 研究員 中島 智優
2022年7月19日 (県漁協佐伯支店)	豊後水道南部海区	「養殖ブリの端境期出荷に向けた8月種苗生産 および現地養殖試験の取組」 水産研究部 資源増殖チーム 研究員 鈴木 翔太
		「養殖牡蠣による赤潮防除対策への取組」 水産研究部 養殖環境チーム 主任研究員 野田 誠

3. 研修事業

1) 視察・研修受入

生徒・児童等の学校関係者や生産者を中心に、視察、見学及び実地の研修や実習等に対応した(図3)。

水産研究部および北部水産グループにおける受入対象者別の実績を表4に示した。



図3 大学生を対象としたインターンシップ研修の様子

表4 視察等受入れ実績

対象者	水産研究部		北部水産グループ	
	件数	受入人数	件数	受入人数
生産者			1	7
団体等職員	1	1	1	2
普及指導員			1	
大学生	2	4	1	1
小・中・高校生	1	6		
合計	4	12	3	10

(注)文書等により依頼があったもの